

現人神社の「正徳四年」銘鳥居 及び「現人大明神」額

【平成10年7月1日 市指定 有形文化財】

那珂川市仲の現人神社の鳥居は、花崗岩で作られた高さ5.15m、柱間4.2mの立派な鳥居です。今は参道の横に置かれている縦90cm、横60cmの「現人大明神」の額は以前は鳥居の上に掛けられていました。鳥居の左柱には正徳四年（1714）の年号が刻まれていることから、那珂川市内の年号のわかる鳥居の中では最も古いものとして、額とともに指定されています。

正徳四年甲午孟夏之日

一七一四年（江戸時代）きのうま（千支の一つ）



奉進本郡内十二邑産子

村産土神を信仰する人々

▲現人神社の明神鳥居

鳥居の柱にある年号と同じ「正徳四年」の銘が、裂田溝の取水口である一の井手の水門にも刻まれていたと伝わっています。

▶外された「現人大明神」の額

大きな額には「現人大明神」と刻まれています。明治維新の太政官布告という法令で「神仏習合」が禁止されたことにより、「明神」は仏教的な用語であるため、鳥居から額が外されました。

